

# どうすればいいのでせう

十文字幼稚園 留岡 よし子

## ○女學生の幼稚園參觀記

ある女學校の五年生が課業の一つとして、一組づゝ參觀に來ました。昭和十七年の暮のこゝです。次は感想記の一部です。

「前略……幼稚園といふ所は、たゞ可愛いゝ子供を歌つたり、遊戯をしたりして遊んでるればいいのだと思つてゐた。まつ來てみて驚いた。あんまりガヤ／＼騒いでゐて、うるさくて頭が痛くなつて來た。子供つて何てうるさいものだらう、幼稚園の先生は毎日よく我慢してゐられると思つた。やがて先生の靜なピアノがはじまるゝ大部分の子が、をさなく竝んで瞑目した。見てゐるゝ何人か小さい子が若い先生がいくら注意しても、ふざけてゐる、見てゐる方がぢれつたくなつてしまつた、その内漸く靜になつて廣い講堂(遊戯室)がしんみする。正面に國旗の額、右に宮城、左に明治神宮、少し離れて靖國神社の額が掲げてある、すつミ右の方に神棚が祀つてゐる。ピアノに合せて「禮」をし

てから「君が代」を歌ひ出した、月曜日には「君が代」を歌ひ、「誓」をするこゝだ、意味がわかるのかわからないのか、ミにかくミの子も一生懸命に歌つてゐるその眞剣さには思はず目頭が熱くなる。

それから「ワタクシタチハ……」こゝよい日本人になりませうといふ「誓のこゝば」を一人の確した子の言ふ後について皆がいふ。その嚴肅な寮圍氣に私は涙が出るのをさめられなかつた。(中略)私にもさ／＼あまり子供が好きな方ではない。でお遊びの時間になつて、いきなり「お姉ちゃん遊びませう」ミ手をひかれて、少し變な氣持がした。久々で童心にかへつて私は子供の様に遊んだ。やがて時間が來て歸る時に「お姉ちゃんまた來て頂戴ね／＼」いはれた時にはもう可愛らしくて本當に別れたくなかつた。「子供が嫌な人でも幼稚園の先生をしてゐるゝ好きになつて人相が變つて來る」幼稚園の先生が仰有つたが本當にさうだらうと思つた。私は生れてはじめて幼稚園を參觀して今まで認識不足

であつた事を恥しく思つた。やがては母なる私達に取つて本當に意義のある一日であつた。先生方の御苦勞の一通りでないことをしみじみ感じて第二國民の育成にお盡しできる事を深く感謝した。「後略」かうした意味のものが實に多いのです。そして「子供が出来たら幼稚園へ入れなければならぬ」と思つた「ミ附加へてゐるものもありました。

この參觀の機會がなかつたら、多くの女學生は、生れて一度も幼稚園（必ず子供を入れなければならないと思ふ）を參觀せずに母になつた）かもしれないと思ふ。協力して皇國の子を育てるべき幼稚園の先生方の御苦勞を知る折がなかつたかもしれない。世の中にこれ程の女學生、又多くの母となる人々が幼稚園を知らず過してゐるでせう母となるべき人々に幼稚園を知つて貰ひたい。廣く幼稚園を知つて貰ふにはどうしたらいいのでせう。

### ○ある父親の話

「幼稚園は子供を甘えさせていけない。子供の機嫌を取つて我まゝにさせる。幼稚園へやるより自分の家の砂場で遊ばせた方がみんなに子供の爲にいゝかわからぬ、自分の子供は幼稚園にやらない」。とある幼稚園関係者の集りできた話。昭和十七年春の頃だとの事。近頃の幼稚園を御覽になりましたか「こいへば」外國のを「三見たが日本のはあま

り知らない」といふことで「まづ日本の近頃の幼稚園を見てから御意見を伺ひたいものです」といつたら「忙しくてね」といふことだつたさうな。「忙しい」全く「忙しい」男の方に幼稚園を知つて頂きたいものです。幼稚園のよい發展の爲にぜひ、よかれ、悪しかれ現状のありのままを知つて頂きたいものです。知つて頂くにはどうしたらいいのでせう。

### ○雪の日に缺席した子供のこぼ

昨日は雪が降つて寒かつたことね。でもお休みしないで元氣よく幼稚園へ来た方が澤山ありましたね○○さんはお母さんが寒いからお休みしてもいゝと仰つたけれど僕もうしてもお休みしないつて一生懸命にいらしたのね。」

「○○さんはうれしそうにほゝえんでゐます。」

「先生僕も……おちいさんがお休みつていつたけれど「いつたの」、「さう」つよいのね！先生はこゝぞご感嘆の意を表します。突然抗議が来ました。

「先生僕は……僕はあのゴム靴がないから、濡れるから、いつちやいけないつて……」

「さくやしさに、ひたむきな抗議です。僕も「私も」「マントがないから」「傘がこわれてゐるから」……」

さうだつた！子供も来たい、親も出したい、幼稚園では取つて置き炭をカン／＼おこして、「一人来た」「ホラ二人来た」と待つてゐる……のに。だのに、雪の日にはいて

くるものがない、着て来るものがないのでした。幸にゴム靴を持つてゐる子供、幸に背負はれて来られる子供達を、やむを得ずその意志に反して来られなかつた子供の前に「元氣がいゝ」さほめてしまつたのです。

いさゝか、あわてゝ、来られなかつた子供に大いに同情の意を表したのですが……あゝゴム靴がほしい、マントがあつたら……否、何かそれに代るものが無いものでせうか。雪や雨の日に缺席させずにすむ様にしたいのですが、うしいたらしいのでせう。

### ○小學校の先生のことば

私の家に弟が一人ゐます、小學校の先生に幼稚園へ出した方がいゝでせうか、出さない方がいゝでせうか。相談しましたら先生が、「幼稚園から来る子は歌や繪は一寸うまいが、生意氣でいふことをきかないで困るから、やらない方がいゝ」、こいはれましたそれで弟は幼稚園にやらないことにしました云々。」

これも女學生の參觀記の一節です。この女學生は「けれどもこの幼稚園へ来てよく賤られてゐるのを見てやつぱり幼稚園へやればよかつたと思ふ」といつてゐます。

これに對し私は「小學校の先生がさういはれたかも知れないが國民學校の先生はもうさういはれないと思ひます云々」とそこ二三年の年月を含ませてみたのです。まだこ

んな事をいふ先生があるかともいひたいのですが、一面まだそんな幼稚園もあるかもしれないとも一應は思つて見ななくてはいけないのでせう。學校側の取扱ひが下手なのか、幼稚園側の不行届か、何れにしても「幼稚園へやらない方がいゝ」といふ聲を早く絶滅したいものです。絶滅するにはさういいたらしいのでせう。

### ○車中拾つた話

満員の汽車です。雑音、騒音の中からふと「幼稚園」といふ言葉が耳に飛込んで来たのです、ハツミなる。ついで乍ら新聞、雜誌何によらず、幼稚園といふ文字を見るに我子に出逢つた様なうれしさ、親しさを……えるのです。幼稚園といふことばにはハツミして、きゝ耳を立てざるを得ないので。背中合せの後の席の會話です。

「全くですよ。幼稚園へやるのも考へものですね」

「それであなた上のが麻疹を買つてまゐりますと次々三人に寝つかれました私もう往生いたしました。」

「それは……お災難なこと……ウチの親戚のもあなた、幼稚園で百日咳をうつされましたね、一頃は苦勞をいたして居りました。」

さうも幼稚園へやるのも考へものごさいますね」全く考へもので……」

幼稚園はすつかり傳染病媒介所となりはてゝ「考へもの

だ「いふ議論が下されてしまひました。

そして麻疹百日咳の餘憤は盡きず一人が「馬鹿野郎」を覚えて来たさいへば一人は「こんちくしょう」なご、いふ下品なごばを使ふ様にもなりましたねえ、ご「幼稚園」は散々な憂目を見てゐるのです。

私は可愛い子供が人中でいぢめられてゐる様な気がしてよつばぎ、わが幼稚園をかばひたかつたのですけれど……：けれご二夫人の申されるのも決して嘘でも偽でもないごせう。

幼稚園は決して傳染病や悪い言葉の流行元ではありませんせんといひたいのですが立派に云ひ切るにはさういらいゝのでせう。

### ○保母の悩み

私はもつと勉強したい……：話をするにしても近頃問題になつてゐる「正しいごば」がよくわかつてゐないでせう、さう發音していゝのか自信がないのも、童話や歌や遊戯を選ばうにしても迷つてしまふのです、決戦下の子供の話、歌、遊戯はさう選んだらいいのでせう。戦争に關係のあるもの許りではいけないでせう。ある方々は戦争の中で生活してゐる子供等だから一から十まで、生活に即したもので、戦争ものでいゝ筈だご仰言るし……：お細工をし様にするご、また古ハガキ古新聞……：否その古新聞

もあまり使へなくなるし、古い菓子箱一つづつ持つていらつしやいなごは、ミてもいへなくなつたし……：勉強したい。講習も受けたい、研究会へも出席したい、ご思つても、家の用事は以前より複雑だし良心的にしたいご思へば思ふ程、體も心も苦しくなつて一そ、保母をやめてしまつたらサツパリするかごも考へてみたり……：さういらいゝのでせう。

全く「さういらいゝのでせう。」

○超然として、見に来たい女學生は來るがよし、來ないで誤解してゐる者はそれも致し方なし……：私は子供ご遊ぶのが本職ですからそんなごにかゝはつてはいられません……：思へたら心ごさかでいゝでせう。

○世の中は目明千人盲目千人、解る人には解る、解らない人には解らない、自體父親は解らない……：ごでも片付けてしまつてそんな苦勞の暇に樂譜の練習でも勵むのがりうかしら。

○この御時勢に幼稚園の保母がゴム靴の心配したつて始まらない。不可抗力だから、くよくよくする暇に童話の一頁も餘計勉強することだごいふ氣になれたら雪の日も雨の日も苦勞が無い事だごせう。

○今頃、幼稚園へやらない方がいゝなんていふ先生の一二人あつたつて、現に幼稚園は押すなごの盛況ではな

いか、事實が立證してゐるそんなことは黙殺してしまへ……さきこかで誰か……いつてゐる様な氣がしますが……。

○何といつても集團生活のこゝだから傳染病、悪いこゝばの流行は止むを得ないこゝ……さしてしまつていゝものでせうか。

○體力には限りがある、内外共に用事は増す一方、そうあれこれ苦に病んでは結局、心身共に疲れはてゝそれは、かへつて職務にも不忠實になる大概のこゝろは眼をつぶつてその日／＼を過す算段……こゝろさきまれば何にも構はないのですが……

歩き乍ら、車にゆられながら……食事しながら……入浴の時、床……に入つてから……

さうすればいいのでせう、に責められるのです。

薬やさんが薬を賣る爲に凡ゆる方法を講じてゐます、所謂宣傳さいふこゝも徹底的にやつてゐます。まゝこゝに、良薬であるを信じてこれを一人でも多くの人に知らせたいとあればあゝもかうもするのが本當でせう。私はよく考へさせられます。私共の仕事はまだ／＼知らない人があつたら知つて貰はなくにはならない。思ひ違ひしてゐる人があつたら早く本當の姿を見せて思ひ直して貰はなくにはならない。と思ふのです。

幼稚園に來た子供を扱ふのが保姆の仕事でせうか。來

られない障得を取除く爲に保姆が何か考へなくてもいゝでせうか、叫ばなくてもいゝでせうか。

學校や家庭に對して、もつゝ働きかける餘地はないでせうか、協力を求める必要はないでせうか。

最後に行當るのは生活と職業の衝突です。一日二十四時間を保姆として全部使ふわけにはいかなないので……それなのに一日三十時間もほしいのですから……一方保姆でない生活の方も一日三十時間もほしい有様になつて來るのです、いかに計算しても答が出て來ないので。「さうしたらいゝのでせうか」「さういふはざるを得ないので。意氣地なしの泣言でせうか。私は「さうしたらいゝでせう」、と戦ひ抜かなくてはならないのです。(十八、三、九)